平成二十九年度　一般入試　学力考査（国　語）

〈答えは解答欄に記入〉

受験番号
名　前

〔一〕次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

1 八月に入った頃、私の暮らす群馬県上野村の森の木々は迷っているようにみえた。今年は暑い夏が長期間つづくのか、それとも早く秋が訪れるのか予想ができない、そんな雰囲気だった。

2 森の木々は夏が長いと予想すると、濃い緑の葉をaイジしようとする。活発に活動して、力を蓄えた方がいいのだろう。（　A　）秋が早いと予想すると、少しずつ葉の色をくすませていく。紅葉はまだ先でも、その準備に入る。この変化はわずかなことなのだけれど、上野村は森に包まれた村である。毎日森をみていると、そんなことも感じるようになってくる。

3 確かに今年の村の天気はかわっていた。暑さが長つづきせず、といって夏が終わったという雰囲気でもなかった。九月には台風がしばしば雨を降らせている。これでは森の木々が迷うのも仕方ない。

4 そんな自然に包まれながら暮らしていると、人間のつくった境界線が不自然なものに感じられてくる。たとえば上野村と隣村は異なった村を形成しているけれど、自然にはそんな境界線はないのである。（　B　）上野村の自然は奥秩父連峰のなかにあって、自然は境界線をつくらずに埼玉県や長野県、山梨県とも一体的な世界をつくりだしている。境界線は人間がつくりだしたものにすぎない。

5 日本の伝統的な社会観では、社会は自然と人間によってつくられているものなのだから、この社会観に従うのなら、人間がつくる環境は控えめでなければならないはずだ。社会のメンバーである自然は境界線をつくらないからである。

6 人間がつくった境界線のなかで一番強固なものは、国境だろう。村や県の境をめぐって戦争は起こらないが、国境は国家をつくり、ときには戦争をもたらす。

7 ところが不思議なのは、市町村や県、国家といったものが、何によって信任されているのかがよく分からないことである。それらはそれぞれの機能をもっている。私もその機能に従って国税や地方税を払い、定められた法律や条例に従っている。海外に出かけるときはパスポートをもっていく。だが、それらは国家などがもつ機能であって、信任とは異なるはずのものである。現実に存在する国家などに組み込まれ、その機能の下で暮らしているだけであって、国家や県、市町村などをつくってほしいというような集団的な意思表示は、おこなわれた歴史が存在しない。

8 それはこういうことだろう。国家は根本的には人々の信任を受けてつくられたものではないにもかかわらず、あたかも信任されているかのように存在することができているのは、国家が私たちを※1庇護（ひご）していると感じられるからである。それが感じられなくなってしまえば、根本的には信任されていないという問題が表に出てくる。

9 今日ではこの問題が、浮上し始めているかもしれない。原発事故によって故郷を追われた人々を、国家は庇護しているのだろうか。多くの基地が集中する沖縄の人たちにとって、「日本」は信任に値するものなのか。格差社会のしわ寄せを受けている人にとって、国家とは何なのか。

10 人々を庇護する能力を失ったとき、人間たちは国家や県、市町村に対して不信感を高めていくだろう。①どうやら私たちは、自分たちの生きる世界のあり方を、根本的に問わなければいけなくなってきたようだ。

（中日新聞　内山節　「視座」による）

○注　1～10は段落符号である。
※1　庇護＝かばって守ること。

問一　傍線部aのカタカナを漢字で書きなさい。

問二　（　A　）と（　B　）にそれぞれあてはまることばの組み合わせとして最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア　A　だから　　B　そして　　イ　A　しかし　　B　また
ウ　A　逆に　　B　したがって　　エ　A　ところが　　B　さらに

問三　傍線部①「どうやら私たちは、自分たちの生きる世界のあり方を、根本的に問わなければいけなくなってきたようだ」について、筆者はなぜそのように言っているのか。その理由として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア　今、日本で起きていることに疑問を感じているから。
イ　人間はもっと自然から学ばないといけないと感じているから。
ウ　世界の中での日本のあり方を考えなければいけないと感じているから。
エ　境があいまいになっているところを見直さなければならないと感じているから。

問四　筆者は第五段落において、「人間がつくる環境」について自分の考えを述べている。それを要約して、六十字以上七十字以下で書きなさい。ただし、「伝統的な社会観」、「自然」、「境界線」という三つのことばを使って、「人間がつくる環境は、……」という書き出しで書くこと。三つのことばはどのような順序で使ってもよい。

※注　句読点も一字に数えて、一字分のマスを使うこと。文は一文でも、二文でもよい。

問五　次のアからエまでの文の中から、その内容がこの文章に書かれていることと一致するものを選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア　筆者は今年の葉の色づきがまちまちに見えたので、秋の訪れを森の木々が迷っているように感じた。

イ　自然は境界線を持たないが、人間は境界線を作り、その境界線によってできた国や県、村などで戦争が起きている。

ウ　国家は信任されていなくても独自の機能によって動くものだが、人々を守るということをしなくなると、その存在意義が危うくなる。

エ　人は長い歴史の中で、自分たちの要求によって国家を作ったが、国家が人に信任されてつくられたものであるとは限らない。

〔二〕次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私は今日、南アルプスの山々に囲まれた小さな幼稚園にやって来た。

廊下の窓からそっと教室をのぞいてみる。あくびをしている男の子や、キョロキョロしている女の子がいた。そしてもちろん、仮設のステージをキラキラした目で見つめている子どもたちもいる。

「センセイ！　なにがはじまるの？」

かわいい問い掛けが聞こえてきて、思わずにっこりしてしまう。

さあ、そろそろ出番だ。担当の先生に合図を送り、音楽スタート。

私はガラリと教室の戸を開けると、元気にステージに登場した。赤いつけ鼻、目の上と口のまわりを白く塗ったメイク、パールピンクのカツラ――。

「ピエロさんだっ！」

子どもたちからワアッと[a]カン声が上がった。

そう、私はクラウンもっちぃ。笑いの天使、陽気なクラウン（道化師）だ。

「こんにちは～」

まずは大きな声でご挨拶。そして耳に手を当てるけれど……。恥ずかしいのか、下を向いてもじもじしてしまう子どもたち。

「音楽、ストップ！」

両手で大きくバッテンをしてみせる私に、子どもたちはくすくすと笑い出す。（　A　）楽しいことが始まりそうだぞと目が輝き始めた。

「じゃあもう一度。こんにちは～」

「こんにちはーっ！」

今度は元気な声が返ってきた。

それではまず……と、床に置いたカバンを持ち上げようとするけれど。あれ？　重くて持ち上がらないよ～というパントマイムに笑い声が聞こえてくる。

ええい、だったらもういいや！と、カバンの中から小さなボールを取り出す私。さあ、このボールですごいことをしてみせるぞ～という仕草に、子どもたちは（　I　）表情で私を見つめる。

では……と、右手で投げたボールを左手で見事にキャッチ！

すごいでしょ！と胸を張るけれど、子どもたちからは大ブーイングだ。

「そんなのできるよ」

「かんたんだよね～」

それじゃあ……ともうひとつボールを取り出し、片手だけでふたつのボールを器用にあやつれば、今度は拍手が沸き起こる。

そしてお次は三つのボールだ。今度はどんなすごいことをしてくれるんだろうと身を乗り出す子どもたち。①私は三つのボールをあざやかにジャグリング（お手玉）をしてみせる……はずができない！　何度やっても失敗する姿に、子どもたちは大はしゃぎだ。

「あーあ、また落っことしちゃった」

「ピエロさん、がんばって！」

跳びはねながら声援をおくってくれる女の子、落っことしたボールを拾いにいって手渡してくれる男の子。（　B　）上手にジャグリングできたときには拍手喝采（かっさい）、あくびしている子も、よそ見している子ももういない。

新聞紙に注いだはずの水が消えちゃったよ、という手品をしたり、バルーン（風船）で作ったウサギや花を配ったり。

「ぼく、ウサギがいい」

「私はちょうちょ」

子どもたちの小さな手が先を争うように伸びてくる。

これで今日のパフォーマンスはおしまい。「バイバイ」と手を振った私は、あっという間に子どもたちに取り囲まれた。

「ピエロさん、楽しかったよ。また来てね！」

どの子もにこにこ笑っている。クラウンとして一番充実を感じるひとときだ。子どもたちひとりひとりの笑顔を見回して改めて思う。

笑顔って、ほんとに素晴らしい。これからも笑うことの大切さを伝えていきたい――。

私はその願いを胸に、クラウンとして活動を続けている。

どんなにつらいときでも、いいえ、つらいときにこそ、笑顔を忘れてはならない。笑顔になれば元気になれる。そうだよね、かずくん――。

②私はそっと、心の中で夫に呼びかける。

（望月美由紀『泣き虫ピエロの結婚式』より）

問一　傍線部aのカタカナで使われる漢字と同じものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア　プレゼントをもらってカン激した。　　イ　新入生のカン迎会が行われた。

ウ　水槽に入ったカン賞魚を眺める。　　エ　子どものケンカに親がカン渉する。

問二　（　A　）（　B　）にあてはまる最も適当なことばを、次のアからエまでの中からそれぞれ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア　ようやく　　イ　なんだか　　ウ　きっと　　エ　全然

問三　（　I　）にあてはまる最も適当なことばを次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア　あどけない

イ　心配そうな

ウ　がっかりした

エ　期待に満ちた

問四　傍線部①「私は三つのボールをあざやかにジャグリング（お手玉）をしてみせる……はずができない！」について、その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア　大勢の子どもたちの前で緊張していたから。

イ　三つのボールでジャグリングする技量がなかったから。

ウ　簡単にやってしまうと盛り上がらないのでわざと失敗したから。

エ　三つのボールでのジャグリングは何度かやって慣れないとできないものだから。

問五　傍線部②「私はそっと、心の中で夫に呼びかける」ときの「私」の気持ちの説明としてふさわしくないと思われるものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア　どんなにつらいときだって笑顔を忘れないんだということを亡くなった夫に誓う気持ち。

イ　幸せでないと笑顔になれないから自分が幸せになることを亡くなった夫に誓う気持ち。

ウ　笑顔の大切さを伝えて周りの人を幸せにしたいということを夫に伝えたい気持ち。

エ　今日も子どもたちを笑顔にすることができたことを夫に伝えたい気持ち。

〔三〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

それ三界はただ心一つなり。①心もし安からずば、象馬七珍もよしなく、宮殿楼閣も望みなし。今、さびしきすまひ、一間の庵、みづからこれを愛す。おのづから都に出でて身の乞匂となれる事を恥づといへども、帰りて②ここにをる時は、他の俗塵に馳する事をあはれむ。もし人この言へる事を疑はば、魚と A とのありさまを見よ。魚は水に飽かず。魚にあらざれば、その心を知らず。 A は林を願ふ。 A にあらざれば、その心を知らず。閑居の気味もまた同じ。住まずして誰かさとらん。

（『鑑賞日本古典文学　第十八巻　徳冨徳治郎　他』）

（注）乞匂＝乞食
俗塵＝世間のわずらわしいこと
馳する＝走り回る
閑居＝俗世間から離れた静かな生活。

問一　二重線①の現代語訳としてもっとも適当なものを次のア～エの中から選び、そのかな符号で答えなさい。
ア　心がもし、安定していれば、象や馬や、いろいろの珍しい宝に目を奪われることはないし、
イ　心がもし、安定していれば、象や馬や、いろいろの珍しい宝を見ても驚くことはないし、
ウ　心がもし、安定していなければ、象や馬や、いろいろの珍しい宝があってもしかたがないし、
エ　心がもし、安定していなければ、象や馬や、いろいろの珍しい宝を見る気がしないし、

問二　二重線②の「ここ」が指している内容を本文中から漢字一字で抜き出しなさい。

問三　A に入る適語を1～5の中から選び、番号で答えなさい。
1　犬　2　蛙　3　鳥　4　猫　5　猿

問四　次のア～エの中から、その内容がこの文章に書かれていることと最も一致するものを一つ選び、そのかな符号で答えなさい。
ア　自然の中で暮らすことが人生で一番幸せなことである。
イ　暮らしていく上で他人と心を通わせながら生きることが良いことである。
ウ　たとえ粗末な住まいでも、その良さは住んでみて初めてわかるものである。
エ　自分の住まいがあることで心が安定し、自然を味わうことのできる余裕ができる。

問五　この文章は、鎌倉時代に書かれた随筆である。その冒頭の部分を読み作品名を漢字で書きなさい。
冒頭　＊行く河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたる例なし。世の中にある人と栖と、又かくのごとし。

〔四〕 次の一～三の問いに答えなさい。

問一　次の①～③の傍線部を漢字にはその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字に直しなさい。
①　欠点をシテキする。
②　ビルがホウカイする。
③　術中に陥る。

問二　次の文中の〔　　〕にあてはまる適語を漢字二字で書きなさい。
難しい局面であったが〔　　〕応変に対処して乗り切れた。

問三　旧暦で二月は何と呼ばれているか。漢字で書きなさい。

平成二十九年度　一般入試　学力考査（国　語）　解答用紙

受験番号
名　前

〔一〕

問一	
問二	
問三	
問四	人間がつくる環境は、
問五	

70

60

〔二〕

問一	
問二	A
問三	
問四	
問五	B

〔三〕

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	

〔四〕

問一	①
	②
	③
	（る）
問二	
問三	